

令和4年 天城町議会第1回定例会

施政方針

天城町長 森田 弘光

はじめに

本日、令和4年第1回天城町議会定例会が開催されるにあたり、町政運営の基本方針と施策の概要をはじめ、町政運営の基本となる令和4年度予算案を申し上げ、議員各位並びに町民の皆さまのご理解とご協力を賜りたいと存じます。

新型コロナウイルスの第6波、オミクロン株の急拡大が年明けから続いております。町民の皆さまにおかれましては、長期にわたり新型コロナウイルスとの闘いを強いられており、それぞれに大変な思いをされているかと存じます。

そして、今なお最前線で対応に当たっている医療関係者の皆さまのご労苦に対し、敬意を表すると共に、深く感謝申し上げます。

さて、去年は町制施行60周年を迎え、新型コロナウイルスの感染症対策として人数を制限してではありましたが、記念イベントや記念式典を開催することができました。

これまでの町政40年、50年と異なるのは何か、と考えた時、それは私達が「新型コロナウイルス」を経験したということだと思います。これまで私達人類が築いてきたものすべてを一変させました。経済、普通の生活すべての関係が壊れ、再構築が迫られています。令和4年度（以下、本年度）も、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（以下、臨時交付金）を活用して、消費拡大による商工業者の支援や、集落支援、農家支援等に努めてまいります。

このような中で天城町の進むべき羅針盤となる第6次天城町総合振興計画（AMAGI-VISION）を策定いたしました。そのAMAGI-VISIONでは、「Reborn（再生）」という基本概念のもとに、sustainable（持続可能な）社会を目指し、向こう10年の事業・施策を着実に進めていくこととしております。

ここで万葉集から舒明天皇の「国見の歌」を紹介いたします。

“天の香具山/登り立ち 国見をすれば/国原は 煙り立ち立つ/海原は
かまめ立ち立つ/うまし国そ/あきづ島 大和の国は”

「天の香具山に登って国をながめると、広い平野の家々にはかまどから煙が立ち上っている。平和で素晴らしい国だ。この大和の国は。」という内容です。この歌が詠まれた飛鳥時代においては、国土を讃える歌をうたうことで、豊穰繁栄、健康長寿が叶うとされてきました。

行政をあずかるものとして、このような和歌の心を持って、「大和の国は」を「天城の町は」に読みかえ、「本当にすばらしい町だ。この天城の町は」つまり「住んでよかった。暮らし満足度NO.1のまち」を目指し、町民と共に働いていく、そういう思いでおります。

町政の舵取り役を賜って4年目。私のモットーであります「先ず隗より始めよ（率先垂範）」「スピード感を持って対応」「必ず記録・メモをとろう」を職員と共有し、「変化を恐れず動き出す」ことを常に意識しながら町民サービスの更なる向上に努めてまいります。

“天城町の心はていーち”。心をつにして、共にがんばりましょう。

以下、重要施策につきましてご説明申し上げます。

1. 安定した雇用を創出する

(1) 農業・水産業の持続的発展による経済の活性化及び所得の向上

本町の農業につきましては、台風などによる気象災害や市場価格に大きく左右されるところではありますが、全般的には、農家の皆さまのたゆまぬ努力により、足腰の強い農業が展開されていると実感しております。

昨年12月に策定いたしました3次天城町農業ビジョンで掲げた「楽しい農で目指せ楽農!! 目指せ45億!!」を合い言葉に、本町農業の課題解決と持続可能な農業経営を進めてまいります。

また、世界的に温暖化対策への意識が高まっている中で農業の果たす役割は大きなものがあります。基幹作物でありますさとうきびは熱帯地方での作物の光合成能率の高い特有の反応経路をもつ植物群、いわゆるC4（シーよん）植物として地球温暖化の原因物質・二酸化炭素を吸収する機能が他の植物に比べて高いと言われており、地球温暖化防止に大きく貢献しております。

そのようなさとうきびでございますが、今期産は台風等の気象災害もなく品質面においては期待できるものの、生産量の見込みが本町で6万4千1百トン、徳之島三町では約17万5千トンと前期産の実績を下回る予想となっております。次期産への対策として、徳之島さとうきび農作業受委託調整センターの機能強化と活用推進、国の補助事業を活用した営農集団への計画的な高性能農業機械の導入支援、夏植えの推進に取り組んでまいります。

また、単収向上や増産に繋がるよう、難防除雑草への対策や土づくりの推進、可動式誘殺灯による病害虫対策等、さとうきびが安定して生産されるよう関係機関と取り組んでまいります。

肉用牛につきましては、コロナ禍にもかかわらず、依然として高値で推移し、自家保留・導入奨励事業の効果もあり順調に規模拡大・増頭が進み、令和3年末における繁殖雌牛頭数は4,200頭を超えました。

本年10月には5年に一度開催される全国和牛能力共進会が本県において開催されます。全国の優秀な和牛が集う大会を契機に更なるスキルアップに繋がることを期待しております。

本年度も引き続き、畜産クラスター事業と町単独事業で作業の省力化と規模拡大を推進し、生産性と収益性の向上に取り組んでまいります。

規模拡大により課題となっているふん尿処理ですが、有用な有機物肥料として活用を促すため、新たに町単独事業として堆肥舎等施設整備事業を行います。また、昨年度開始しました死亡獣畜処理対策事業による助成も併せ、引き続きふん尿、死亡獣畜の適正な処理へ向けた啓発を行ってまいります。

ばれいしょにつきましては、全国的な供給量不足により高単価で推移していますが、種子不足や植付け後の干ばつ、病害の影響などにより収穫量が減少傾向にあるため、単収向上及び面積維持が課題となっております。

そのため、臨時交付金を活用し、種子消毒及び植付け後の消毒薬助成を行い、病害予

防と供給力の強化支援に繋げてまいります。

また、植付機、堀取機、穴堀機などの導入助成に加え、労働力不足への対応としてドローンによる薬剤散布助成など、作業省力化へ向けたスマート農業にも取り組んでまいります。

実えんどうにつきましても、令和3年度に引き続き、臨時交付金を活用し資材助成の拡大や、生産の維持、供給力の強化支援に繋がります。

その他、園芸作物全般の技術向上へ向け、関係機関や農業センター等による営農指導を行ってまいります。

また、果樹の主力品目であるマンゴー、パッションフルーツへの取り組みとして、品評会を開催し品質の高位平準化を目指します。

担い手の確保につきましては、2020 農林業センサスによる本町の農家戸数は 773 戸と5年前より 165 戸減少し、年齢別農業従事者数における 65 歳以上の割合も 43.3% と 3.2 ポイント高齢化が進んでいる状況です。そのため、農業センター研修制度や指導農業士による指導等を通じて人材の確保・育成に取り組むと共に、人・農地プランや農地中間管理事業の推進により、担い手への農地の集積・集約化を進めてまいります。

また、女性農業者の参画、高齢農業者の知識や経験の伝承、農福連携など地域の農業を支える人材の確保に取り組んでまいります。

更に、経営体育成や農業法人化の推進、青色申告会及び収入保険制度への加入促進による経営の安定化を図ります。

食育・地産地消につきましては、本町の食の魅力を再発見し、多彩な食文化と豊富な農畜産物を生かしてまいります。

学校における教育ファームや親子料理教室を通じて食と農への理解を深め、地元産食材及び郷土料理を取り入れた学校給食の充実を図ってまいります。

「あまぎ自然と伝統文化体験館」内の直売所整備に向け、農産加工による新商品開発や既存商品への支援、地元産農産物を中心としたマルシェの定期的な開催で農業者と消費者との交流を促進します。また、天城町の農産物の魅力を PR するため、SNS による情報発信を進めてまいります。

農業センターにつきましては、農業研修制度を活用し担い手・新規就農者の確保に努めてまいります。また、農業塾や技術セミナーを活かした野菜や花づくりの実践と、苗もの市の開催で活発な家庭菜園の普及を図り、自給野菜の確保を推進してまいります。

土づくりにつきましては、土壌分析装置の更新を行い、土壌診断に基づく土壌改良資材投入による地力の増強に取り組めます。併せて、堆肥や緑肥等の有機物施用、施肥量の適正化等、温室効果ガスの削減に向けた取り組みについても推進してまいります。

鳥獣被害対策につきましては、イノシシの食害による農作物被害は減少しているものの捕獲頭数は横ばいの状況にあります。

令和 3 年度に天城町鳥獣被害対策実施隊による防護柵の点検を行いました。本年度から特に破損が著しかった箇所やイノシシ被害の多い地区の破損箇所を優先に補

修等を順次進めてまいります。

また、「山猪工房あまぎ」における猪肉は、ふるさと納税や島内外への販売で需要が増しております。そのため、捕獲方法や買取り基準の見直しを行い、買取り頭数を増やしてまいります。

林業につきましては、島内産材の普及と利用促進に努めてまいります。松くい虫被害は減少しておりますが、引き続き枯損木の伐倒、樹幹注入を実施し、その保護に努めてまいります。

特用林産物の生産について、「シイタケ類」の産地化に向け、普及に取り組んでまいります。

林道の維持管理につきましては、森林整備における通路としての役割の他、災害時の迂回路としての機能等を有するため、定期的な除草・伐採作業を実施してまいります。

水産業につきましては、漁業者の所得向上を第一に考え、現在整備中の6次産業化施設を活用した魚類の安定的な買取り、高付加価値化を目指します。

また、町単独で行っております水産業活性化推進事業では、若い世代の組合員の参入が増えつつあるので、経営規模の拡大も視野に入れながら今後も支援してまいります。

農業基盤整備につきましては、天城町畑かん営農ビジョンを基に、関係機関並びに畑かん推進員と協力をしながら、その基盤整備に取り組んでまいります。

現在進めております8地区の県営畑地帯総合整備事業により畑かん68ha、区画整理4haで、ほ場整備率は85.3%になる見込みです。支線についても4.2kmの事業を実施してまいります。なお、徳之島ダム受益地の散水可能予定面積は、令和4年3月末時点で400ha、進捗率は29.7%となる見込みです。

また、県営畑地帯総合整備事業の未精算事務につきましては、現在33地区のうち7地区が完了しました。引き続き未完了地区の清算事務に取り組んでまいります。

農道及び水路整備につきましては、農業基盤整備促進事業中部地区においては、残る浅間の農道180m、北部地区では農道270m、排水路150m、南部地区では農道500m、排水路50mの整備を進めてまいります。

また、農業・農村活性化推進施設等整備事業(大津川地区)においては農道300mの整備を行ってまいります。

南部ダム畑かん施設は、経年劣化により機能低下が生じていることから、ストックマネジメント事業を進めております。また、末端施設につきましても、農業用水の供給に支障をきたしていることから、事業計画を策定し、施設の適正な維持管理に取り組んでまいります。

多面的機能支払交付金事業につきましては、本年度も、農地、農道、水路、沈砂池等の維持管理活動を実施し、また、広域組織は新たな活動として施設の長寿命化活動を実施してまいります。

地籍調査事業につきましては、34.08%の進捗率となっております。令和4年度は、
当部・西阿木名(三京)の新規・継続合わせて55haを進めてまいります。

(2) 新たな事業創出と観光産業の振興

平土野地域の活性化につきましては、引き続き平土野地区起業家支援事業や平土野地区活性化基金活用事業を活用した新たなチャレンジの支援や、天城町農泊推進協議会と連携したにぎわいづくりに努めてまいります。

平土野活性化事業として、地権者のご協力のもと、商店街の中の駐車場舗装整備を実施いたします。また、ポケット公園前から役場下までの歩道のカラー舗装を実施いたします。

平土野港多機能港湾新設に向けた取り組みにつきましては、新型コロナウイルスの影響により十分な活動ができておりませんが、平土野港多機能港湾新設期成同盟会の皆さまや町議会議員の皆さまと連携し、国・県への要望活動を強力に展開してまいります。

商工業につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で大きなダメージを受けたところであります。臨時交付金を活用し、商工業者の皆さまへ支援してまいりましたが、本年度も国や県と連携し、緊急支援事業等を行い、事業継続支援に取り組んでまいります。

長引くコロナ禍で経済的に打撃を受けた町内商工業者の支援及び町民の生活支援を目的に、本年度も臨時交付金を活用して天城町商工業応援商品券「むーるしきばらーでい商品券」第三弾を実施いたします。

また、引き続き町単独事業として、プレミアム商品券補助事業実施し、町内における消費購買の拡大を図ります。

マイナンバーカードの交付状況につきましては、令和4年1月1日現在、国が41%、鹿児島県が38.5%、天城町が28.9%と低い割合となっております。

引き続き広報誌やA Y T文字広告での周知、窓口での申請サポートを実施するほか、特定健診会場等での出張申請受付を行ってまいりますので、多くの町民の皆さまのマイナンバーカード取得をお願いいたします。

また、引き続き令和4年度マイナポイント事業第2弾を実施するなど、キャッシュレスの推進に取り組んでまいります。

観光業につきましては、世界自然遺産に登録され観光客の増加が見込まれるため、天城町14集落の案内看板を作成します。観光地連携整備事業で大和城バンガローを整備してまいりました。観光客は勿論ですが、町民の皆さまの自然体験や憩いの場として活用していただきたいと思っております。環境に配慮した整備を心がけると共に人と自然が共生する癒しの観光地づくりを継続して進めてまいります。

あまぎ自然と伝統文化体験館整備事業につきましては、年次的に整備を行ってまいります。徳之島の豊かな自然や島唄、踊り、闘牛などの伝統文化の魅力や徳之島ならではの特産品や農産物販売、観光情報を効果的に発信できる施設として整備してまいります。

闘牛大会は勿論ですが、コンサート会場など若い人たちのイベント開催に利用できる、『稼げる施設』を目指します。そして、B&G 海洋センターや総合運動公園とも連携し、伝統文化体験やスポーツに限らず様々な場面で人と人をつなぐ機能を持たせ、異なる価値観が出会う場所にしたいと考えています。

トライアスロン I N 徳之島大会につきましては新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2年連続の中止という残念な結果となっております。2022年第35回大会開催に向けて、これまで以上に工夫をこらしながら、「スポーツ愛ランド徳之島」を広く島外に発信してまいります。

日本初の総合アウトドアメーカーである「モンベル」の103万人を要する会員組織に、フレンドタウンとして加入し、トライアスロンは勿論のこと、天城町の特産品や観光情報等の魅力を発信することで天城町を広くPRし、誘客につなげてまいります。

スポーツ合宿誘致につきましては、多様な分野への経済波及効果があります。これまで合宿を行ってきたスポーツチームとの繋がりを大切にすると共に、新規開拓を行うなど、年間を通して誘致活動を行い、天城町のスポーツ合宿を通じた活性化を図ってまいります。

「燃ゆる感動かごしま国体」トライアスロン競技につきましては、令和5年10月の本町開催に向けて準備を進めてまいります。松原漁港を中心としてトライアスロン競技が開催されますが、万全な体制の構築、気運醸成を図るなど、準備を進めてまいります。

令和元年から徳之島と大阪（伊丹）を往復する臨時便が年末年始及び夏休み期間に就航しております。今後も、引き続き国・県・航空会社等への定期的な直行便就航の要請活動を行ってまいります。

併せてクルーズ船誘致につきましても、世界自然遺産登録地であることを最大限に生かし、徳之島天城町の魅力を世界に発信できるよう、積極的な誘致活動を行ってまいります。

2. 新しい人の流れをつくる

(1) ふるさと創生

新型コロナウイルス感染症が長期化したことで生活様式が変容し、様々な場面でデジタル化やオンライン化が進んでおります。そのため本町も、関係人口や“天城町ファン”の協力を得ながら、「おいでよ！魅惑のアマパゴス ワークーション事業」など企業の地方分散に対応できるよう体制を整備してまいります。

移住・定住の促進につきましては、移住コンシェルジュ（地域おこし協力隊）によるSNS等での積極的な移住情報発信を行っており、令和3年度は移住・定住に関する問合せ件数が164件ありました。

コロナの影響もありましたが、それでも実際に山海留学併せて 10 世帯 19 人の方が移住いたしました。

これからもワンストップ移住相談窓口の体制強化と移住情報ウェブサイトを活用し、多様な移住ニーズの把握と移住希望者に寄り添った支援を行ってまいります。また、大都市圏での移住フェア等に積極的に参加、PR活動を実施し移住人口の増加に努めてまいります。

空き家対策につきましては、令和3年度は、11件の空き家バンクの登録、9件の空き家改修費補助を実施いたしました。今後も空き家の有効活用を促進すると共に、町ホームページなどで広く空き家情報を提供し定住者の増加に繋げてまいります。また、天城町空家等対策計画に基づき空き家・廃屋などの適正管理を啓発してまいります。更に、国の空き家再生等推進事業を活用し危険家屋の撤去を進めます。

ふるさと納税につきましては、ふるさと納税ポータルサイトの増設などにより、総額 1 億円を越えるなど順当に伸びてきております。あらためてご寄附を下さった皆さまへ心からお礼申し上げます。頂いたご寄附をもとに、本年度も各保育所への備品購入や観光施設の整備を実施いたします。また整備した実績につきましては、寄附者をはじめ、町民の皆さまへ広く周知してまいります。

そして寄附者の皆さまとのご縁を継続していけるよう、関東や関西をはじめとした島外へのPR活動を積極的に行ってまいります。

(2) 世界自然遺産登録地として

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録されました。世界自然遺産登録を、ゴールでなくスタートとして捉え、希少野生動植物の保護や外来種対策などの遺産価値の保全に努めます。

特にアマミノクロウサギをはじめとする希少野生動物のロードキル対策の強化として看板設置やキャンペーンを実施してまいります。また、エコツアーガイドの育成、林道の利用ルールなどの設定をし、適切な観光管理で、その遺産価値を保ってまいります。

環境省と連携して整備しました天城岳松原登山道につきましては、来る3月12日に「開通式&登山道ウォーク」が開催されます。観光客のみならず広く地域の方々にも利用していただき、世界自然遺産の魅力をアピールしていただきたいと思います。

引き続き奄美群島振興開発事業を活用した「徳之島希少野生動植物保護事業」や「徳之島三町ネコ対策事業」を展開してまいります。

現在、国をあげて2050年までに温室効果ガスゼロを目指しているところであり、本町においても、世界自然遺産登録地としての環境保全に努めていくほか、地球温暖化対策、気候変動等に対応するための脱炭素化社会（カーボンニュートラル）の実現に向けて積極的に取り組んでまいります。

3. 健康・妊娠・子育て・教育の希望をかなえる

(1) 子どもから高齢者までみんなが健康の町

保健予防事業につきましては、引き続き乳幼児健診、特定健診、長寿健診、がん検診などの各種検診の受診率向上に努め、早期の育児支援や保健指導、疾病の早期発見・早期治療につなげ、健康の保持増進と医療費の適正化に取り組んでまいります。

また、新型コロナウイルス感染症 3 回目のワクチン接種につきましては、65 歳以上の高齢者の皆さんの前倒し接種を 1 月下旬より各医療機関で実施しております。集団接種につきましても 3 月 7 日から順次進めております。11 歳以下の若年層のワクチン接種につきましては、希望する皆さんに迅速に接種できるよう、医療機関との協議を進めているところでございます。

新型コロナウイルス感染症対策基金を活用した、島外療養者の帰島旅費助成を継続し、本年度新たに、感染した方や濃厚接触者の自宅待機への支援を行います。

新型コロナウイルス感染症対策につきましては、マスク着用や手洗い、密集・密接・密閉の三密を避けるなどの新しい生活様式を徹底していただくよう改めてお願い申し上げます。

子育て支援につきましては、保健センターに新設した「子育て世代包括支援センター（こそだてらす）」を拠点とし、妊婦等保健指導・妊婦乳幼児健診・産後ケア事業・親子教室等を実施しています。本年度新たに、こそだてらす研修会・相談会、発育発達促進事業を実施し、出産前から育児まで、切れ目のない子育て支援を展開してまいります。

国民健康保険事業につきましては、誰もが安心して医療が受けられるよう、その安定的な運営を進めてまいります。また、年々高騰し続けている医療費の抑制を図るため、個々に応じた運動の提案を実施すると共にレセプト点検等の医療費適正化対策を推進してまいります。

介護保険事業につきましては、自立支援・介護予防・重度化防止に取り組むと共に、介護サービスを真に必要とする方へ、過不足ないサービスを適正に提供し、介護保険制度の安定と持続可能な運営を推進してまいります。

地域支援事業につきましては、高齢者が安心して自分の家で暮らし続けることの出来る社会の構築を目指してまいります。そのために、高齢者の状況を把握し、医療・介護・予防・住まい・地域の見守りや生活支援等の充実を図り、高齢者一人ひとりの生活を支える仕組みづくり、地域包括ケアシステムの構築と充実を図ってまいります。

児童福祉につきましては、少子化対策並びに子育て支援の取り組みといたしまして「児童養育助成事業」による保育料の無償化や「児童医療費助成事業」による高校生までの医療費助成を継続すると共に、昨年度から実施しております小学校入学生の保護者への「新入学生未来づくり応援金」や在宅で子育てを行う世帯への「在宅育児支

援事業」など引き続き取り組んでまいります。

また、「出産祝金」につきましては、本年度からは第1子5万円を10万円に増額し、第2子以降については、1子ごとに10万円の加算とする拡充を行い、少子化対策及び子育て世帯への経済的支援や負担軽減に努めてまいります。

保育所につきましては、先ほども申し上げましたが、ふるさと納税を活用した設備や遊具等の整備を進めると共に、築40年以上が経過している保育施設の建て替えに関する保護者等の意識調査を実施し、今後の建設に向けての準備を進めてまいります。

障がい者福祉につきましては、昨年度から実施しています海岸清掃など就労機会の提供を継続して行うと共に、先程も申し上げました農業センターなどを活用した農福連携に取り組み、障がいのある人が社会活動に参加するための支援に努めてまいります。

また、「障害者医療費助成」や「障害福祉サービス事業」による介護給付や相談支援給付等を引き続き実施し、障がいを抱えた方やその家族が安心して暮らせるように支援してまいります。

高齢者福祉につきましては、「敬老祝金支給」や「敬老バス無料乗車証交付」の実施、ひとり暮らしの高齢者等が安心して暮らせる環境づくりのための「緊急通報装置」の設置・推進に取り組んでまいります。

また、本年度からは老人クラブ等の自主的な活動を更に支援するため助成金の拡充や、新たに高齢者ハンドル形電動車いす（シニアカー）購入費の一部助成を行い、高齢者の外出時の移動支援に取り組んでまいります。

(2) 将来の天城町を託せる人材の教育

教育文化の町づくりにつきましては、「ユイの心もち、世界雄飛と島担う人づくり」を基本目標として、将来の天城町を託せる人材育成を推進してまいります。

学校教育につきましては、人権尊重並びにSDG sの理念を念頭に置いた教育活動を展開してまいります。また、引き続き新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～を基に対策を講じながら教育活動を実施してまいります。

個々に適した学習環境の整備・情報活用の習得を目指したG I G Aスクール構想実現に向けて、これまでに整備したタブレットを家庭学習でも活用できるよう環境づくりを推進してまいります。

教職員の働き方改革の推進につきましては、学習評価に校務支援システムを活用するなど事務作業の負担軽減を図ってまいります。

学力向上に向けた教員の資質向上、充実した教育活動の推進につきましては、「天城町教育推進プラン」に基づきながら、教員も子どもも共に成長できるように努めてまいります。

特別支援教育につきましては、相談体制の更なる充実に努めると共に、引き続き学校間の交流を深めてまいります。生徒指導につきましては、心の教育相談員やスクールソーシャルワーカーの配置を継続すると共に、引き続き臨床心理士によるスクールカウンセリングを定期的に行い、個々に寄り添った支援を継続してまいります。

「われんきゃグローバルプロジェクト事業」につきましては、児童・生徒の基礎学力の定着及び学習意欲の向上に資するため、各種検定を実施し、保護者の経済負担の軽減を図るためこれに要する経費について学力向上検定補助事業を継続して実施いたします。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止していた中学生を対象とした海外派遣事業については、本年度に限りオンラインによる交流活動を中心とした内容にいたしますが、その事業は進めてまいります。

英語教育につきましては、令和4年度～令和6年度を英語教育強化期間として「天城町英語教育推進プラン」に基づいた英語教育を展開してまいります。小・中学校においては、今まで以上に生の英語に触れる機会を設けるため、ALTが2名体制となりました。更には、幼稚園・保育所へ派遣しグローバルな触れ合いの中で幼少期から英語に慣れ親しめる環境を作ります。

郷土教育につきましては、ふるさと天城に誇りをもつ児童生徒を育てると共に、次世代を担う人材を育成するため、シマグチや島唄など伝統文化に関心を持ち、自然環境等の世界的な“価値”について学ぶ「あまぎ学」を引き続き実施いたします。

本年度は、新たにクラウドファンディングを活用したテキスト「徳之島・天城町が世界に誇る自然と文化(仮)」を製作してまいります。

学校給食につきましては、地場産品を積極的に活用し、子どもの地域に息づく自然や文化、農業に関する理解を深めると共に、生産者の努力や食に関する感謝の気持ちを育ててまいります。そのため昨年度に引き続き地場産品や地元生産牛などを食材として使い、地域農業・畜産業についての食育学習を推進してまいります。

また、保護者の教育費負担を軽減し、家庭生活環境の向上と、安心して子どもを産み育てやすい環境づくりを支援することを目的として、本年度から学校給食費の完全無償化を実施いたします。

健康で心豊かな子どもの育成につきましては、体験活動や芸術とのふれあい教室を実施すると共に、山海留学制度や特認校制度を活かした学校及び校区の活性化地域支援活動を推進してまいります。

高等学校、短期大学、専門学校、大学等への進学希望者を対象に、天城町育英奨学資金を継続して貸与してまいります。夢と希望の上原勇一郎奨学資金につきましては上原氏ご本人に直接ご相談するなど、継続して貸与できるよう努力してまいります。

また、コロナ禍の中、島外で不安な学生生活を送っている町内出身のすべての学生に対し、継続した学びを応援するために臨時支援金の給付を引き続き実施してまいります。

学校施設につきましては、第6次天城町総合振興計画(AMAGI-VISION)及び天城町学校施設長寿命化計画に基づき校舎・体育館・教員住宅の計画的な補修・建て替えを進めてまいります。そのため、新たに「天城町学校施設整備基金」を設け、その財源を確保してまいります。

本年度は、西阿木名校区に1棟4戸の教員住宅を建設いたします。

併せて、給食センターの建設につきましても、用地の取得や基本設計など準備を進めてまいります。

社会教育につきましては、令和5年1月に「家庭・学校・地域と共に学び、育ち、楽しむPTA活動」をテーマに鹿児島県PTA研究委嘱公開が本町で開催されます。PTA会員相互の資質向上と活動の充実・発展が図られる大会になることを願っています。

また、文化芸術の取り組みとして、子どもを対象とした「心の教育芸術鑑賞」や一般を対象とした「みやまふれあいコンサート」を実施する等、芸術を愛する心や豊かな情操を育てていきます。

生涯学習につきましては、町民の価値観や学習ニーズに的確に対応し、各講座の内容の充実を図ってまいります。

また、放送大学授業単位取得助成事業につきましては、生涯学習の観点から受講者の学習意欲の向上及び経済的負担軽減を図ります。各種資格取得、キャリアアップなどたいへん有意義な学習機会を提供できる事業だと考えています。今後、多くの皆さまにご利用して頂ければと思います。

教科セミナーにつきましては、授業内容の充実や夏季・冬季セミナーの集中講義や模擬テストに力を入れ、個々の様々な能力開発・学力向上を支援し次代を担う青少年の健全育成を図ってまいります。

また、自主的学び応援事業につきましては、平成30年度から今まで13名の生徒を島外の学習塾夏季スクーリングに派遣することができました。更に参加枠を増やし、自ら何事にもチャレンジする生徒の育成に努めてまいります。

図書館につきましては、昨年度導入した読書通帳を有効活用しながら読書活動の充実を図ると共に、本年度、新たに導入致しますプロジェクターを活用した映画観賞会等を実施するなど、今後も町民が気軽に利用できる図書館を目指してまいります。

読み聞かせは、教育格差関係なくできる最初の教育と言われております。子どもと過ごす時間を大切にし、就学前に学業の基礎を作ることができることから、それを共有し、習慣化されるよう努めます。

ユイの里天城花いっぱいフラワーロード運動につきましては、開始以来多くの町民の皆さまにご参加・ご協力をいただいております。

事業をとおしてOSOS運動の推進と地域コミュニティの育成並びに地域活性化を図りながら、自立・共生・協働の町づくりを更に推進してまいります。

社会体育につきましては、第75回県民体育大会第63回大島地区大会及び第49回大島地区スポーツ少年団競技別交歓大会の「全空連空手道競技」がどちらも本町で開催されます。

また、令和3年度に新型コロナウイルス感染症により中止となった「巡回ラジオ体操・みんなの体操会」でございますが、再申請し、本年、8月12日に本町で開催される事が決定いたしました。町民の皆さまのご参加をよろしくお願いいたします。

B&G海洋センターにつきましては、総合体育館及びプールの利用促進に努めます。また、多目的艇庫を活用した学習体験プログラムの充実や、水上アクティビティを通じた青少年の健全育成、並びに交流の場としての利用の推進に努めてまいります。

ユイの館につきましては、世界自然遺産登録により島外の来館者が増えてくる事が予想され、郷土文化資料の収集・保存・展示などの充実を図ります。

また、夜光貝を利用した工芸教室等の各種講座、島の自然を題材とした講演会などを開催して町民の学習環境の充実を努めてまいります。

文化財事業につきましては、国宝重要文化財等保存整備事業を活用して、下原洞穴遺跡の緻密な調査を行い、国史跡への指定を目指します。そのためにキックオフイベントとして、専門家を交え、下原洞穴遺跡に関するシンポジウムを開催し、これまでの調査によって得られた成果を地域の方々と共有すると共に、文化財保護思想の醸成に努めてまいります。

4. 時代に合った地域をつくり、安心したくらしを守る

(1) 町民が安心して暮らせる環境の確保

生活環境の整備につきましては、国庫補助事業の前野岡前横断線及び平和東線の道路改良を継続して推進してまいります。また、各集落の要望箇所につきましては、バランスよく対応してまいります。

地方改善施設整備事業につきましては、寺原線、兼久千間線が完了しました。本年度は仲間5号線ほか、集落内排水路の整備を進めてまいります。

舗装修繕事業につきましては、瀬滝三京線・松原天城線・浅間中央線・奥川線を中心に進めます。また、町単独事業として、町道米配田線の舗装を行います。

県道につきましては、維持補修事業及び路傍樹育成保全事業を継続して実施してまいります。

町営住宅整備につきましては、その住宅不足解消に努めてまいります。公営住宅建設事業として前野団地に1棟6戸を建設します。また、大和川団地の用地取得も進めてまいります。更に、町単独事業で三京集落に木造住宅2棟2戸の建設を進めてまいります。

公園整備事業につきましては、総合運動公園・岡前西郷公園の遊具施設等の更新に区切りがつかしました。遊具等公園内施設につきましては老朽化を見越した安全確保のため、定期的な更新が必要でございますので、また新たな計画を立ててまいり

ます。本年度は高千穂公園の遊具等の設置を行ってまいります。

防災につきましては、新たな情報配信手段として「天城町防災アプリ」の運用を開始いたします。

各自のスマートフォンに「天城町防災アプリ」をインストールすることで、いつでも、どこにいても、情報の確認が可能となります。併せて、平常時の行政放送等の告知にも活用してまいります。

いつ、発生するかわからない大規模自然災害に備え、町土の強靱化対策は喫緊の課題であります。

去る1月16日に発表された津波警報は、新型コロナウイルス感染が収束しない中、深夜という時間帯で避難体制の課題も洗い出されました。町民の生命を守るため、日頃からの備えを訓練等でシュミレーションすると共に自主防災組織の強化と防災意識の向上を図り、災害に強いまちづくりを推進いたします。

昨年3月に策定した「天城町国土強靱化地域計画」に基づき、年次的に指定避難所の暴風対策等の避難所機能強化を実施してまいります。本年度は、「前野福祉館」、「西阿木名地区振興センター」の2箇所について実施いたします。

また、B&G財団からの「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築事業」を活用して、重機や水上バイク、災害用ドローンの講習・研修を行い、災害時に運用できる体制構築を図ります。

地域防災の要である消防団員の確保と養成が課題であり、引き続きA Y Tや町ホームページを活用し人材確保に努めてまいります。

また、徳之島地区消防組合天城分遣所の高規格救急車について、町民の生命及び救急隊員の心的負担軽減のため、車両更新を行います。

交通安全・防犯対策等につきましては、徳之島警察署及び徳之島地区防犯連絡協議会や集落区長との連携により、危険箇所等を把握すると共に、その情報を共有し早期対応に心がけ安心安全なまちづくりを目指します。そのために防犯カメラの設置を年次的に実施してまいります。

また、集落からの要望が多い防犯灯につきましては、引き続き防犯灯設置LED化補助金交付事業を拡大し、必要箇所への設置及びLED化を促進いたします。

その他、町内交通支部及び交通安全母の会と共に交通ルールや交通マナーの意識向上、並びに飲酒運転根絶運動を積極的に実施してまいります。

長引くコロナ禍で集落行事の中止による寄附金の減少など、集落運営が逼迫している状況に鑑み、臨時交付金を活用して令和3年度に引き続き、「集落支援事業」を実施いたします。

水道事業につきましては、町民が安心できる水の安定供給を目指し水道施設の適正な維持管理を行ってまいります。

また、集中豪雨、台風、地震などの大規模自然災害に耐える強靱かつたくましい水道施設を目指し導水管、配水管の強化、上水道施設の更新に努めてまいります。

本年度は、松原地区の「生活基盤近代化事業」採択のため、天城町上水道事業変更認可申請を行い、令和5年度事業開始に向けて進めてまいります。

生活環境・公衆衛生につきましては、生活排水対策として合併処理浄化槽設置整備事業を推進しております。本町においては、合併処理浄化槽設置率が51%と県内においては下位にあることから、より一層の設置に努めてまいります。

廃棄物対策としましては、ごみの分別を徹底して行うと共に、生ごみ処理機購入費助成事業を行い、ごみの減量化・資源化を推進してまいります。

徳之島愛ランドクリーンセンター新設につきましては、天城町での新設が決定しております。新設準備のため、建設地の確保等を目的とした基本構想の策定を行ってまいります。

また、不法投棄防止パトロールや海岸漂着物の回収を行い、景観及び自然環境の保全に努めてまいります。

(2) 行財政改革の推進

第3次天城町行政改革大綱及び天城町人材育成基本方針に基づき、複雑多様化する行政課題や町民ニーズに的確に対応できるよう、新たにデジタル推進係及びカーボンニュートラル係、世界自然遺産保全係を新設いたします。

また、職員の意識改革やコンプライアンスの徹底はもとより、職員の資質向上や組織力の強化、町民との協働意識の醸成を図ってまいります。

税務行政につきましては、多くの町民の皆さまには納税に対するご理解・ご協力をいただいております。納税者の利便性確保の方策としては、口座振替の推進と共に、毎月1回休日納付窓口の開設のほか、24時間対応のコンビニ収納やスマホ決済システムPayB（ペイビー）やPayPay（ペイペイ）等を実施しております。また、納税意識の向上を図るため、小中学生を対象とした税に関する作品募集や町税に関する広報等に積極的に取り組んでまいります。

一方、納税に対する理解が得られない一部の滞納者に対しては、法に基づき預貯金や生命保険等の財産調査及び勤務先への給与調査等を行います。更に財産差押えなどの滞納処分を強力に実施し、併せて差押物品の公売会を開催してまいります。

以上、町政運営の基本方針と施策の概要を申し上げます。

今後も町民と共に働き、健全な町政運営に取り組んでまいりますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

次に、令和4年度予算案の概要を申し上げます。

予算案の概要

令和4年度の予算案につきましては、昨年策定いたしました「第6次天城町総合振興計画(AMAGI-VISION)」に基づくと共に、限られた財源を有効に活用し、職員一人ひとりの柔軟な発想と英知を結集し、高度化する社会、多様化する町民ニーズに的確に対応するという基本的な考え方の元に編成を行ったところでございます。

それぞれの会計の予算額については、
一般会計は、対前年度比1.8%増の64億6千2百30万4千円、
国民健康保険事業特別会計は、対前年度比1.6%減の9億5千6百51万7千円、
介護保険事業特別会計は、対前年度比3.1%減の8億4千9百79万3千円、
後期高齢者医療事業特別会計は、対前年度比1.3%増の7千8百88万2千円、
徳之島ダム小水力発電特別会計は、対前年比3.4%増の4千6百80万3千円、
水道事業会計は対前年度比0.8%減の2億5千4百95万1千円となっております。

一般会計と特別会計・公営企業会計をあわせた予算の総額は86億4千9百25万円、対前年度比0.8%増の7千74万6千円の増額となっております。

それでは、一般会計当初予算案の概要について、ご説明いたします。

〈 歳 入 〉

町税につきましては、個人町民税、法人町民税共にほぼ同額、固定資産税は減額で、対前年度比2.4%減の3億8千3百21万4千円を見込んでおります。

地方譲与税につきましては、対前年度比2.1%増の7千76万円となっております。

利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、法人事業税交付金、地方消費税交付金、環境性能割交付金、地方特例交付金、交通安全対策特別交付金につきましては、これまでの実績等を踏まえそれぞれ計上しております。

地方交付税につきましては、国の総額は対前年度比3.5%の増加となっております。本町でも、基準財政需要額と基準財政収入額、令和2年国勢調査の結果や昨年実績などを考慮し、対前年度比較1億7千2百59万円増額の30億9千6百89万3千円を見込んでおります。

分担金及び負担金につきましては、公立保育所等負担金の減などがありますが、天城町商工業応援商品券事業個人負担金5千万円を見込んでいるため大幅な増額となっております。

使用料及び手数料につきましては、住宅使用料の増により1.5%増を見込んでおります。

国庫支出金につきましては、障害者自立支援給付費負担金や子どものための教育・

保育給付費負担金、地方創生臨時交付金、農業競争力強化農地整備事業補助金などを計上しており、対前年度比8.5%増の7億4千9百37万5千円となっております。

県支出金につきましては、農地利用最適化交付金や農林水産物等輸送コスト支援事業補助、あまぎ自然と伝統文化体験館整備事業補助などを計上しており対前年度比26.7%増の5億5千4百26万2千円となっております。

財産収入につきましては、2.8%減の2千2百19万4千円、寄附金については天城町ゆたかなふるさと寄附金と一般寄附あわせ、1億5千万1千円を計上しております。

繰入金につきましては、保育所の遊具購入や花いっぱいフラワーロード事業、海外留学派遣助成等の財源として天城町ゆたかなふるさと基金より4千6百59万5千円を繰入し、集落提案型まちづくり活動支援交付金の財源として地域づくり推進基金より2百10万円を活用することとしています。

また、木造住宅建設事業費の財源として、起債事業を活用しつつ、天城町公共施設整備基金より9百48万円、更に財政需要に対処するため財政調整基金より2億3千8百36万9千円などの繰入を行います。

繰越金につきましては2千万円、諸収入につきましてはB&G財団助成金等を計上し、前年度比29.3%増の4千2百44万7千円を計上しております。

町債につきましては、ハード事業に5億4千1百90万円、産業振興・交通通信体系整備・福祉向上・教育振興などのソフト事業に9千1百50万円、臨時財政対策債に4千4百26万7千円を計上し、対前年度比ほぼ同額の6億7千7百66万7千円の起債を予定しています。

〈 歳 出 〉

議会費につきましては、対前年度比1.3%減の9千1百83万1千円を計上しております。

総務費につきましては、対前年度比7.2%増の10億9千3百55万6千円の計上となっております。新型コロナウイルスの影響で各種行事等が開催できなくなった集落を応援するための集落支援事業助成金や徳之島希少野生動植物保護事業費、移住・定住促進事業費、参議院議員選挙費、昨年度から実施している樟南第二高等学校と連携した次世代育成連携事業も継続して計上しております。

民生費につきましては、社会福祉費は増額、児童福祉費はやや減額ですが、全体では対前年度比4.0%増の11億6千3百27万4千円となっております。本年度新たに「高齢者ハンドル型電動車いす購入費助成」を計上し、「新入学生未来づくり応援金」、「在宅育児支援金」について継続して計上すると共に、「出産祝金」につきましてはその内容を拡充し、増額計上しております。

衛生費につきましては、コロナワクチン接種事業費や各種検診等に関する事業費、また、徳之島愛ランドクリーンセンター新施設建設に向けた基本構想策定に要する経

費などを計上しておりますが、前年度比 5.5%減の 5 億 8 千 4 百 13 万 8 千円となっております。

農林水産業費につきましては、農業経営支援事業費や農業基盤整備促進事業費、新規事業として畜産振興と環境配慮に資するため「堆肥舎等施設整備事業費」を計上しております。令和 3 年度で国営徳之島用水事業負担金の償還が終了したため、対前年度比 23.8%減の 8 億 3 千 8 百 80 万 7 千円となっております。

また、既存の各種補助事業や、鳥獣等被害対策についても積極的に取り組んでまいります。

商工費につきましては、天城町商工業応援商品券事業費や、あまぎ自然と伝統文化体験館整備事業費などを計上しており、対前年度比 37.2%増の 2 億 8 千 5 百 2 万 1 千円となっております。

土木費につきましては、町道米配田線改修事業費や平土野活性化事業費を新たに計上すると共に、木造住宅建設事業においては、三京集落に 2 棟 2 戸の住宅建設を計画し、移住・定住の促進を更に強化してまいります。土木費の予算額については、対前年度比 9.7%増の 7 億 9 千 9 百 77 万円の計上となっております。

消防費につきましては、高規格救急車の導入を計画しております。対前年度比 5.0%増の 2 億 1 千 6 百 7 万円となっております。

教育費につきましては、「共に支える学校給食無償化事業」として、町内児童・生徒の学校給食費完全無償化を実施します。

また、生徒・教師の心のケアを目的とした心の健康支援事業や学校 ICT 環境整備運営事業も継続して実施し、教育環境の向上に努めると共に、外国青年招致事業や「われんきゃグローバルプロジェクト事業」において、引き続き外国語教育の強化を図ってまいります。

戸森の線刻画見学環境整備事業費や地域の特色ある埋蔵文化財活用事業費の計上もあり、教育費全体では、対前年度比 20.9%増の 5 億 8 千 7 百 36 万 2 千円の計上となっております。

災害復旧費につきましては、1 千 6 百 47 万 4 千円、公債費については、7 億 8 千 3 百万 1 千円、予備費としまして 3 百万円を計上しております。

ただいま、一般会計の予算案の概要について申し上げましたが、町政運営の基本方針に基づくと共に、「住んでよかった！ 暮らし満足度 No.1 のまち」を目指し、予算を編成いたしました。

重ねてではございますが、議員各位並びに町民の皆さまのご理解とご協力を賜りたいと存じます。

以上で私の施政方針及び令和 4 年度の予算案の概要の説明を終わらせていただきます。

